

## 平成30年版長野県環境白書の発刊に当たって

私たちが暮らす長野県は、県土の8割を森林が占め、清らかな水や空気に恵まれるとともに、南北に長く急峻で標高差が大きい地形は、豊かな自然環境や多様な生態系を育み、地域ごとに独自の文化を形成してきました。

しかしながら、近年の気候変動の進展は、自然災害の増加や動植物の分布域の変化など、私たちの生活にも大きな影響をもたらしています。また、今後見込まれる人口の急激な減少は、環境保全をはじめ地域を支える担い手の不足をもたらし、地域活力の低下も懸念されています。

世界に目を転じますと、地球規模の環境の危機を背景に採択された「パリ協定」の実施に向けた具体的なルールについて合意が得られ、また、企業が取り組む二酸化炭素排出量削減の取組などを重視して投資を行う「ESG投資」に関心が高まるなど、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」に関する国際的な取組も本格化しています。

こうした中、県では、平成30年3月に「第四次長野県環境基本計画」を策定いたしました。今回の計画では、分野を横断する広がりを見せ、複雑多様化する環境問題に対応するため、SDGsの観点を取り入れ、県民、事業者、行政など、あらゆる主体のパートナーシップにより経済・社会・環境の統合的向上を図り、持続可能な社会の構築に向け取り組むことといたしました。

平成30年版長野県環境白書は、前計画の最終年度である平成29年度の県内環境の状況や環境に対する取組などを中心に取りまとめました。県民の皆様を始め、多くの方々に御覧いただき、長野県の環境について理解と関心を高めていただくとともに、様々な環境保全の取組を進める上での参考としていただければ幸いです。

2019（平成31）年3月

長野県環境部長 高田 真由美